令和5年度

授業改善推進プラン

板橋区立加賀中学校

令和5年9月

授業改善推進プラン

教科名【国語科】　学年【７年】

生徒の状況	・開始、終了のあいさつをはじめ、１時間全体を通して授業規律が保たれている。 ・「知識・技能」においては、１学期期末考査において、漢字・文法分野の正答率は 53.6％であった。 ・「思考・判断・表現」においては、１学期期末考査において、「グラフを読み取り、内容として誤っているものを選びなさい」という選択問題への正答率が他の問題に比して低かった。
指導についての課題	・漢字の読み書きの正答率を向上させること。また、文法分野の知識を定着させること。 ・説明的文章において、本文の内容とグラフと関連を丹念に確認させる活動を取り入れること。また、類似の取組を繰り返し、定着を図ること。
授業革新推進に向けての具体的な方策	☆板橋区授業スタンダード徹底の継続 ・本時の「めあて」を冒頭に確認し、何を学び何を達成すべきかを明確にする。 ・考えを述べる際は、意見だけでなく文中の根拠と合わせて述べる、など教科書を読む活動を積極的に取り入れ、読み解く力の向上を図る。 ・「まとめ」と「振り返り」を通して、自己の学習を調整できる力を意識させる。 ・漢字については定期的に小テストを実施し、少しずつ確実に習得できるようにする。 ・古典の学習では暗記事項の知識の定着を図りつつ、歴史的背景の説明等を通して、古典の面白さに気付かせる指導を心掛ける。

授業改善推進プラン

教科名【国語科】　学年【８年】

生徒の状況	・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、「国語の授業内容がどのくらい分かるか」という質問に肯定的な回答した生徒が 90.3%で都と同程度、「国語の学習はどのくらい得意か」では 63.7%で都より 10%上回っていた。授業アンケートでも「授業内容を十分理解できている」と回答した生徒が 72.9%であった。この結果から、大半の生徒が授業内容を理解し、大きな苦手意識をもたずに取り組めているということがわかる。 ・授業での様子や課題への取組状況、定期考査の結果等から見ると、文章の構成や物語の展開を捉えて筆者の考えや人物の心情を読み取ることは比較的できているが、漢字の書き取りの定着度合いが読み取りに比べて低く、小テストと同じ間違いを繰り返す生徒が多い。また、繰り返し出題される表現技法等の既習事項も同様の失点が多い。他にも、文章で読み取ったことから自分の考えを深めて書くという課題を苦手とする生徒が多く、意見や根拠を具体的に述べられないという傾向が強い。
指導についての課題	・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、学習の進め方〈漢字・話す・聞く・書く・読む〉の１１項目のうち、肯定的な回答をした生徒の割合が都より下回ったのは、「漢字の部首の意味も考えながら覚えている（－2.2%）」と「他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている（－3.9%）」の２つであった。この結果から、昨年度の既習事項である部首の意味の把握も含めたより丁寧な漢字指導と、聞く力を高めるための指導が必要である。 ・自分の考えを書く課題においては、何を書けばよいか分からず手が止まってしまったり、始めから投げやりな取組態度になってしまったりする生徒がいるので、発問文を読んでその意図を理解し、何を書くことを求められているのかを理解させることが課題である。
授業改善に向けての具体的な方策	・漢字は、部首の意味だけでなく、漢字の成り立ち（特に形声文字）との密接な関係も意識した上で丁寧に覚えることを再度指導する。 ・「聞くこと」においては、発表の際の評価シートの指導だけでなく、授業で既習事項を板書せずに口頭で確認する際に、適宜メモを取ることを促す等して必要な情報を取捨選択して聞き取る力を付けさせることをより意識して取り組ませる。 ・「書くこと」においては、「何を、どのように書いたらＢ評価（Ａ評価）なのか」という評価規準を事前に示し、Ｃへの手立てを具体的に考えた上で、生徒の取組状況に応じて個別に助言する指導を継続し、少しずつでも考えを書けるようにする。

授業改善推進プラン

教科名【国語科】　学年【９年】

生徒の状況	・発言が活発で、自らの意見を臆することなく発表できる生徒が多い。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では授業内容への分かりやすさにおいて、肯定的評価が 98.1%であったが、「得意」と感じている生徒の割合は 59.3%で開きがある。 ・「全国学力・学習状況調査」では平均正答率が 74%で都や全国を上回っているが、知識・技能における我が国の言語文化に関する事項では正答率が比較的低い傾向にある。
指導についての課題	・授業において「わかった」と感じさせることは概ね達成できているが、その上に「できた」と感じさせることが課題となる。 ・古典の学習において基礎的・基本的な知識の習得を徹底することが課題となる。
授業改善に向けての具体的な方策	☆板橋区授業スタンダード徹底の継続 ・本時の「めあて」を冒頭に確認し、何を学び何を達成すべきかを明確にする。 ・「まとめ」と「振り返り」を通して、自己の学習を調整できる力を意識させる。 ・得た知識を活用し、アウトプットさせる活動を積極的に取り入れ、学んだことを自らが認知できるようにする。 ・生徒の成果物に対して、「できた」と感じさせる適切な価値付けを行うために、評価の規準を明確に示す。 ・考えを述べる際は、意見だけでなく文中の根拠と合わせて述べる、など教科書を読む活動を積極的に取り入れ、読み解く力の向上を図る。 ・古典の学習の際には歴史的仮名遣いや既習の古文単語の復習を取り入れ、定期考査等において定着を図る。

授業改善推進プラン

教科名【社会科】　学年【７年】

生徒の状況	生徒状況は以下の３点を挙げる。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、「授業がよくわかる」と答えた生徒は 50.4%いた。これは東京都平均より 10%以上高く、社会科に関しては肯定的な評価が多い。また、「社会の学習はどれぐらい得意か」という項目では「得意」と答えた生徒は 22.8%であり、東京都の平均よりも 5%高かった。 ・期末試験の平均は 64.1 点であり、得点分布も二極化ではなく、ピラミッド型になっている。 ・話し合い活動では自分の意見を他者に伝えることができる生徒が多く、考えを深めることができている。 この結果から、大半の生徒が授業内容を理解しており、否定的な考えをもたずに取り組めているということがわかる。
指導についての課題	今年度の指導における課題は以下の２点をあげる。 ・ふりかえりを chromebook で毎回行っているが、chromebook の操作に苦戦している生徒が多い。chromebook を開くだけで３分程度時間を使ってしまい、ふりかえりの時間を５分確保していても、授業のふりかえりを正確に記入することができない課題がある。授業でふりかえりを記入することができない生徒で提出忘れが目立った。 ・定期試験にて語句を問う問題の解答は分かるが、漢字で書けずに間違えてしまった生徒が多かった。
授業改善に向けての具体的な方策	①ふりかえりの時間を確保する。 ふりかえりの時間を８分程度確保した授業展開を練る。また、ふりかえりシートの改善を行う。ふりかえりは以前 Google フォームで行っていたが、生徒自身でふりかえりを出せているか確認できない課題がある。2 学期からはスプレットシートを利用していくことで生徒自身も提出状況の確認を可能にしていく。 ②小テストや単元テスト、長期休暇明けテストの改善 定期試験では語句を正確に書くことができない生徒が多くいたので、定期的な小テストや単元テストを行う。テストの内容も語句を問う問題を作成する。

授業改善推進プラン

教科名【社会科】　学年【８年】

生徒の状況	・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、「社会の授業内容がどのくらい分かるか」という質問に肯定的な回答した生徒が 77.9%で、都の 83.6%と比べて 5.7%低い。それに対して「社会の学習はどのくらい得意か」という質問に肯定的な回答した生徒が 46.8%で、都の 48.4%と大きな差はみられない。 ・資料を読み解く課題を提示すると、多くの生徒は資料から尋ねられている情報を適切に読み取ることが不得手である。また、考えて説明する課題を提示すると、教科書から適切な箇所を抜き出すことや、いくつかの適切な箇所を要約するなどしてまとめることが苦手である。 ・グループで学習する場面では、生徒どうしで教え合うなどして学習を進めることを目標にしている一方、ある程度考えてわからないから仲間のものをみて写すという生徒が多くいるように感じる。
指導についての課題	・多くの生徒が「社会科は覚えれば定期考査で解答できる」という認識をもっている。だが、授業の課題や定期考査などの問題文、授業などの教科担当の教師の説明を理解することができていないために適切な解答ができていない生徒が多い。 ・資料を活用して適切な情報を読み取ることが苦手な生徒が多く、また INPUT した知識等を適切に活用して OUTPUT することが不得手な生徒が多いので、「資料を読み解く力」および「課題について思考する力・判断する力・表現する力」を養っていく必要がある。 ・生徒が書いた「学習内容のまとめ」（ふりかえり）を確認すると、「〇〇がわかった」などと書いている生徒がいる一方で、「めあて」に沿って「学習内容のまとめ」を書くことができていない生徒が多い。
授業改善に向けての具体的な方策	・本時の授業の「めあて」を明確にし、「学習内容のまとめ」を生徒に記入させ、提出した内容を添削することを継続していく。 ・グループワークなどで「学び合い」の学習を継続し、解答や授業内容等が「わかる」だけではなく、教えあったり意見交換をしあったりすることが「できる」授業にしていく。 ・社会科の特性である、現代社会とつながりをもって考えさせるような教材・授業内容にし、生徒の興味や関心を高めていく。

授業改善推進プラン

教科名【社会科】　学年【９年】

生徒の状況	生徒状況は以下の２点を挙げる。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、「授業がよくわかる」と答えた生徒は 34.3%いた。これは昨年の調査を比較すると、「授業はよくわかる」と答えた生徒は 20.5%であり、約 14%数値が上がっている。また、「社会の学習はどれぐらい得意か」という項目では「得意」と答えた生徒は 23.1%であり、東京都の平均よりも約 5%高かった。このことから社会科に対して以前よりも肯定的な評価をする生徒が増えたことがわかる。 ・期末試験の平均は 65.3 点であり、80 点～90 点の得点者数が一番多かった。観点別の得点を見てみると知識・技能の観点で約 6 割後半取れている生徒が多く去年よりも改善されつつある。
指導についての課題	・話し合い活動には意欲的に取り組む生徒は多いが、何について話すべきか聞いてくる生徒がいる。 ・歴史分野では 30 字以上書く記述問題の正答率が低い。
授業改善に向けての具体的な方策	①グループ活動のやり方を変えていく。 ・１グループ３～4 人に設定する。 ・「なぜ〇〇か理由を２つ予想しなさい」などといった具体的な発問を設定する。 ・まとめの際には「〇〇」という語句を使って説明しよう、などといった条件付きのまとめを課題にする。 ②知識・技能の定着を図る。 ・定期的な小テストの実施 ・７～８年生の既習内容も副教材を使って復習していく。 ③文章を書く力を育成する。 ・授業のまとめや定期テストでは知識を使って文章を書く機会を設ける。

授業改善推進プラン

教科名【数学科】　学年【７年】

生徒の状況	・習熟度別・少人数授業実施（２クラス３展開） ※１学期末現在、配置教員不足のため未実施 ・全体的に集中して授業に取り組んでいる。 ・意欲的に授業に取り組むことができているが、自分の考えを数式やことばで伝えることを苦手としている生徒が多い。 【令和５年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果より】 ・「前に同じような問題をやったことがあるかや、今まで学習した問題とどこがちがうのかを考えている」という質問に対し、「当てはまる」と回答した生徒が 30.7%と都平均と比較してやや低い傾向にある。 ・「テストやドリルでまちがえたときは似た問題を選んで、特に練習している」という質問に対し、「当てはまる」と回答した生徒が 23.6%と都平均と比較して 10 ポイントほど低い傾向にある。
指導についての課題	・小学校で学んだ算数の学習内容のうち、簡単なかけ算・わり算や分数の計算を苦手とする生徒への支援を充実させること。 ・中学校で学ぶ基礎・基本となる学習内容の定着が十分でない生徒への支援を充実させること。 ・文章題を苦手としている生徒が多くいるため、文章から必要な数値や着目すべき文章を読み取る活動を充実させること。 ・授業内で自分の考えを式やことばで表現したり他の人の考えを式やことばから読み取ったりする機会を充実させること。
授業改善に向けての　具体的な方策	・定期考査や単元テスト、学習課題への取組により生徒の理解度を適切に把握し、授業内容や進め方を見直していく。 ・学力向上専門員と生徒の学習状況などの情報を共有し、個別指導が必要な生徒への支援を充実させる。 ・解法やわかったことを互いに説明し合う機会を増やすことで、数学的な見方・考え方を十分に働かせる授業を実施する。 ・生徒の苦手分野における課題の傾向をつかみ、授業の中で学び直しや振り返りの機会を計画的に設定する。 ・基本的な学習内容は類似問題を多く扱い、反復演習や小テストにより知識・技能の確実な習得を目指す。

授業改善推進プラン

教科名【数学科】　学年【８年】

生徒の状況	・習熟度別・少人数授業実施（2 クラス 3 展開） ※1 学期末現在、配置教員不足のため未実施 ・全体的に集中して授業に取り組んでいる。 ・互いに教え合う活動が充実するようになってきている。 ・数学的な用語を用いて説明することや数学的な用語を用いて解答を作成することが苦手な生徒が多い。 ・発展的な学習課題にも挑戦する生徒が多くいる。
指導についての課題	・中学校で学ぶ基礎・基本となる学習内容の定着が十分でない生徒への支援を充実させること。 ・文章題を苦手としている生徒が多くいるため、文章から必要な数値や情報を表にまとめられるよう指導すること。 ・授業内で学び合い活動を行う際に、数学的な用語を用いて説明できるよう指導を行うこと。
授業改善に向けての　具体的な方策	・定期テストや小テスト、学習課題への取り組みにより生徒の理解度を適切に把握し、補習等により生徒に必要な支援をする。 ・学力向上専門員と生徒の学習情報を共有し、個別指導が必要な生徒への支援を充実させる。 ・解法やわかったことを発表する際、数学的な用語を用いて説明できるように促す。 ・数学用語を黒板に貼りだし、数学的用語を用いて説明できるように促す。 ・基礎的な学習内容は類似問題を多く扱い、反復演習や小テストにより知識・技能の確実な習得を目指す。 ・デジタル教科書のシミュレーション機能を活かしつつも、実際の操作・観察の活動を重視することで本質的な理解を促す。 ・問題文の数値や着目すべきことばに線をひくことや、表に整理すること、図に書くことなどを通して読み解く力の向上を目指す。

授業改善推進プラン

教科名【数学科】　学年【９年】教科名【数学科】　学年【９年】

生徒の状況	・習熟度別・少人数授業実施（２クラス３展開、１クラス２展開） ・全体的に集中して授業に取り組んでいる。 ・発展的な学習課題にも粘り強く取り組む生徒が多く、互いに学び合う環境が整ってきている。 【令和５年度全国学力・学習状況調査の結果より】 ・全国学力・学習状況調査での全体の平均正答率は 57%であり、全国との比較＋6.0%、都との比較＋3.0%となった。また記述式問題正答率は 45.8%であり、全国との比較＋4.2%、都との比較±0.0%と記述式の正答率は全体の平均より低くなった。
指導についての課題	・全体的に授業への取り組みもよく、積極的に発言し、ペアワークなど、意欲的に取り組んでいる。 ・既知の問題については、高い正答率を残すことができているが、違う表現や活用が必要になる問題における正答率は低い。そのため、より深い理解となる指導が必要である。 ・都立入試等で問われる実践的な力を各単元の学習中でも身に付けていくこと。(過去問や入試対策問題への取り組み充実)
授業改善に向けての具体的な方策	・定期考査や単元テスト、学習課題への取り組みにより生徒の理解度を適切に把握し、補習等により生徒に必要な支援をする。 ・学力向上専門員と生徒の学習状況などの情報を共有し、個別指導が必要な生徒への支援を充実させる。 ・解法やわかったことを互いに説明し合う機会を増やすことで、数学的な見方・考え方を十分に働かせる授業を実施する。 ・生徒の苦手分野における課題の傾向をつかみ、授業の中で学び直しや振り返りの機会を計画的に設定する。 ・基本的な学習内容は類似問題を多く扱い、反復演習や小テストにより知識・技能の確実な習得を目指す。 ・デジタル教科書のシミュレーション機能を活かしつつも、実際の操作・観察の活動を重視することで本質的な理解を促す。

授業改善推進プラン

教科名【理科】　学年【７年】

生徒の状況	第７学年のクラス人数は３４人の４クラスで、３～４人の９班編成で教室での話し合い、理科室の観察・実験を行っている。授業に対して前向きに取り組む生徒が多く話し合いから発表と活発に行うことができる。 【令和５年度「児童・生徒の学力を図るための調査」から】 理科の学習が得意ではないと答えた生徒は３８％いるが、学習がわからないと答えた生徒は１７％にとどまっており、得意でなくとも理解する努力を怠らない姿がうかがえる。
指導についての課題	・生徒に、ノートを活用してもらうため、Ａ４ノートを使い、板書した事を写すために活字を大きくしたり、絵や図を使い、わかりやすい言葉で解説をしたりする等の工夫をする。プリント類はノートに貼るためＢ４，Ｂ５の大きさにする。 ・教科書の音読を行い、大切なポイントに線を引くなど、後で復習をするときに、教科書を読み解くことができるようにする。 ・教科書にある観察・実験を実施して、映像に頼ることなく手や足を動かして、生徒同士が協力して何かを成し遂げた成就感をもてるようにする。 ・観察・実験レポートを書くことで、自らの表現力を高めることができるようにする。
授業改善に向けての　具体的な方策	・上記に記述した課題について、今までも取り組んできたが、それぞれに工夫を加えた改善を図る。 ・教室における学習に、班での話し合い活動を行い、発表を行うことで学習に能動的に取り組むようにする。

授業改善推進プラン

教科名【理科】　学年【８年】

生徒の状況	・理科への興味・関心が高い生徒が多い。 ・グループワークの際、自分の意見を言える生徒が多い。 ・授業内の課題に取り組む意欲は全体的にあるが、家庭での復習や宿題の取組が不十分な生徒もみられる。 ・令和５年度「児童・生徒の学力を図るための調査」から、「教科書や問題集を用いて、学習したことを確実にできるようにしている。」生徒は８２％だが、「自分で計画を立てて学習している。」生徒は６０％である。 ・Chromebook を用い、ミライシードのムーブノートを活用し授業を行っているが、タイピングスキルが高い生徒が多い。
指導についての課題	・自然科学に対して興味・関心が高い生徒が多いが、継続してじっくり取り組むことが苦手な生徒もいる。集中しやすい雰囲気をつくっていくことが課題である。 ・科学的なことに興味・関心が高く、積極的に発言する雰囲気があるが、取りかかるまでに時間がかかる生徒もいる。個別の声かけや支援が課題である。 ・与えられた課題のみを行い満足するのではなく、生徒自らが計画的・自主的に学習を進められるような支援が課題である。
授業改善に向けての　具体的な方策	・科学的に探究する力を育成する ①自然の事物・現象の中に問題を見いだせるよう課題を設定する。 ②見通しをもって観察・実験などを行えるよう、条件を検討し実験を計画する活動を多く設定し、主体的に取り組めるようにする。 ③科学的思考力を高めるため、得られた結果を分析して解釈する活動を行う。 上述の③の活動をＩＣＴ機器や各種ソフトを用い行う。ＩＣＴ機器を活用し、意見交流の時間、思考の時間を増やし、分析や解釈する活動を重点的に行いやすくする。 ・定期的に宿題や小テストを課すことで、家庭学習の時間を増やし、反復と定着を図る。 ・長期的な課題を設定し、どのように学習していくか計画を立てる機会を設ける。

授業改善推進プラン

教科名【理科】　学年【９年】

生徒の状況	・１クラス３７人、４人班で観察・実験・班活動を行っている。 ・理科への興味・関心が高い生徒と低い生徒が混在している。 ・令和５年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果 理科の学習が得意・どちらかといえば得意な生徒：５２％ 理科の授業がよく分かる、どちらかといえば分かる生徒：７６％ ・教科書と Chromebook を用いて、意欲的に授業に取り組む生徒が多い。
指導についての課題	・教科書を読み解くことが困難な生徒もいる。じっくりと丁寧な指導が課題である。 ・振り返りの時間に学習内容の要約ができない生徒もいる。めあてを常に意識して授業を行うように声かけや支援が課題である。 ・自信をもって発言することができない生徒もいる。ICT を用いたり列指名をしたりすることで、自信をもたせていくことが課題である。
授業改善に向けての　具体的な方策	・教科書を自ら読み解こうとする工夫 授業中は大切なポイントに線を引いたりメモをとったりするように指示する。教科書の本文から抜き出しの小テストを行うことで、一人でも教科書を読み解こうと思うようにする。 ・主体的に観察・実験を行う工夫 班内の一部の生徒だけで進めていくことがないよう、役割分担を確実にする。 ・科学的に探求する力の育成 探求的な課題を設定し、班活動を通して、主体的に取り組めるようにする。 ・個々の生徒への対応 授業内に問題演習時間を多く確保し、机間巡視で対応する。 ・振り返りの時間の充実 振り返りシートをもとに学習内容と自らの学習行動を振り返るようにする。

授業改善推進プラン

教科名【英語科】　学年【７年】

生徒の状況	・少人数授業実施（２クラス３展開） ・全体的に集中して授業に取り組んでいる。チャット活動やペアワークなどの言語活動にも主体的に参加しており、英語で表現し、相手に伝えようとする前向きな姿勢が見られる。 ・令和５年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査では、「英語の学習は得意ではない。どちらかと言えば得意ではない」と回答した生徒は 46.5%と苦手意識をもつ割合が高いが、「授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる」と回答した生徒は 86.6%であった。
指導についての課題	・教え合いができる少人数クラス編成の工夫。 ・基礎基本の力や課題提出が不十分な生徒への対応。 ・繰り返し「書くこと」の練習。 ・教科書本文の音読練習の継続。 ・スピーキングテスト導入に向けた対策。 ・自分の考えや思いを言語化する練習。
授業改善に向けての　具体的な方策	・板橋区スタンダードに則り、授業の最初には Today's Goal を示し、最後に Goal に対する「ふりかえり」を着実に行うことにより、何を学び、どのような力がついたかを意識できるようにする。 ・ICT 機器などを積極的に利用し、生徒の興味・関心を高め、よりわかりやすい授業を目指す。 ・協同学習を多く取り入れ、学び合う力や英語での表現力を高める。 ・Unit ごとの小テストやノート・ワークへの取り組みを通して、繰り返し「書くこと」の練習を行う。 ・２学期から、教科書本文から読み取ったことを基にして、分かったことを Retelling する活動を取り入れ、学んだことや考えたことを人に伝える練習を継続的に行う。 ・ALT を活用し、より実践的な場面を設定しての活動や、パフォーマンステストを実施する。

授業改善推進プラン

教科名【英語科】　学年【８年】

生徒の状況	・少人数授業実施 （２クラス３展開） ・昨年度と比べ Chromebook を使用する回数も増え、PC 上での課題の確認や提出、小テストも実施している。 ・導入には今年度から購入した「読みトレ」を活用し、50 語程度の文章を読んでいる。定期考査における長文読解の問題の正答率も高く、長文の大問全体での正答率は 60%となった。 ・ペア活動やグループ活動にも意欲的に取り組んでおり、授業中の集中力は全体的に高いと感じる。 ・定期考査において、誤答率が高い傾向にあったのは「言い換え」や「要約」、さらには問題文の見間違いであった。照応や係り受けの力や単純に問題文を精読する力が不足している。
指導についての課題	・授業アンケートにおける「教科書等の文章から読み取ったことを基にして、分かったことや考えたことを個人でまとめたり、グループで意見交流したりする活動を通して、読み解く力」では、「当てはまる」と答えた生徒が 60%をわずかに下回っており、教科書や「読みトレ」の十分な読み込みが必要である。 ・加えて音読、教科書付属の QA、ワークブック等を用いて授業内で解答解説の時間を取る。 ・「めあて」に沿った振り返りを行い、学んだことの言語化ができている生徒も全体の 7 割弱に留まる。
授業改善に向けての　具体的な方策	・本時の「めあて」を毎回提示し、それに沿った授業を展開する。 ・各授業内での「まとめ」と「振り返り」の時間を充実させる。 ・「読みトレ」の活動は継続し、授業内で教科書やワークに取り組む時間を拡充する。 ・ALT を活用したパフォーマンステストにおいては、授業内での説明・準備時間と、十分な練習期間を確保し、生徒各自の言いたいことを「言語化」する力を向上させる。 ・副教材の「めきめき English」を授業内でもさらに活用し、教科書の理解度や、個人の読解力、表現力の向上を図る。

授業改善推進プラン

教科名【英語科】　学年【９年】

生徒の状況	・少人数授業実施 （１、３組⇒２クラス３展開、２組⇒１クラス２展開） ・全体的に授業に集中し、積極的に発言を行い、音読練習やペアワークなどのアクティビティーに熱心に取り組んでいる。 ・毎時間行っている 2 minutes chat への取組もよく、自分のことを英語で表現し、相手に伝えようとする姿勢が継続的に見られる。 ・昨年度よりも課題提出率が上がった一方で、課題をこなすことに精一杯で学習内容が未定着な部分がある生徒もいる。受験に向けて、継続的に粘り強く家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせたい。
指導についての課題	・ペアで学び合いができる少人数クラス編成の工夫 ・授業アンケートにおいて「読み解く力が身に付いている」と回答した生徒は全体の６割であった。特に長文読解に苦手意識をもつ生徒が多いため、毎回の帯活動として副教材「読みトレ」を活用し、速読を意識させながら長文読解問題に取り組ませる ・単元テストや定期考査での英作文が苦手な生徒への支援 ・中学校英語スピーキングテスト ESAT-J に向けた対策 （2 minutes chat や ALT とのパフォーマンステストの継続） ・教科書本文の音読練習の継続 ・教科書の Key Sentence や Practice、新出英単語の書くことの練習
授業改善に向けての　具体的な方策	・本時のめあてを明確に示し、生徒自身の言葉で振り返りを行い、板橋区授業スタンダードを継続する。 ・2 minutes chat などの協同学習を多く取り入れ、学び合う力や英語での表現力を高める。 ・ALT を活用し、より実践的な場面を設定して、パフォーマンステストを実施する。 ・授業態度や課題提出状況、単元テストやパフォーマンステストへの取組を通して、生徒の理解度を把握し、必要な支援を行う。 ・受験対策として、１年生からの文法総復習のため副教材「ぎゅぎゅっと」を活用し、週に１度、１単元ずつの小テストを実施することを２学期以降も継続していく。

授業改善推進プラン

教科名【音楽科】　学年【全学年】

生徒の状況	・どの学年も意欲的に授業に取り組もうする姿勢が見られる。 ・知識についてもよく理解している生徒が多いが、その知識を表現に生かしきれていないところもある。 ・歌唱など明るく元気に歌う生徒も多く、またリズム活動にも興味関心を持ち取り組めている。
指導についての課題	・生徒一人一人、楽曲の感じ取り方や表現の仕方も違うので、個々に合わせた指導、助言を行う。 ・生徒が主体的に考えを持ち、表現活動に生かす。 ・鑑賞では、旋律だけを意識してしまい、曲の背景や旋律や伴奏の変化など様々な要素を聞き逃すことも多いので、関連性を考えさせる。
授業改善に向けての　具体的な方策	・明確なめあての提示を通して、学習内容の充実を図る。 ・ICT 機器などを使い楽曲のイメージや音色に対しての興味関心を高める。 ・振り返り活動を通して、人それぞれ様々な考えがあることを理解させ、幅広い感性の育成を図る。

授業改善推進プラン

教科名【美術科】　学年【全学年】

生徒の状況	・どの学年も作業に意欲的で、授業に静かに集中して取り組んでいる。 ・与えられた課題に対して条件に即して自己の持ち味を生かせるよう努力している生徒が多い。 ・９年生に関しては創作意欲も高く、優れた作品を制作することができる生徒が多い。８年生は昨年度に比べ表現力が向上している。７年生も全体的に落ち着いて授業に取り組んでいる。 ・「振り返りシート」の記入により、自己の取組を詳しく分析し、次回での課題を見いだす生徒が増えてきている。
指導についての課題	・生徒が持てる力を十分発揮し、さらに授業に集中して取り組むことができるように指導、助言を行う。 ・生徒の苦手分野における課題の傾向をつかみ、的確な助言や指導方法の工夫を行う。 ・生徒の表現力をより高められる指導と環境整備を行う。 ・机間巡視を徹底し、生徒の意欲がさらに高まるように、必要なときに必要な助言や道具等を提供する。
授業革新推進に向けての具体的な方策	※板橋区授業スタンダードを徹底し、継続していく。 ・導入時に本時の「めあて」を確認し、学習内容や達成目標を明確にする。 ・参考作品やお互いの作品、歴史的な名画等を鑑賞し、視覚的な読み解く力の向上を図る。 ・「振り返り」の時間を通して、自己の学習の成果を再確認できる機会を充実させる。 ・引き続き作業に集中しやすい雰囲気を作っていく。

授業改善推進プラン

教科名【保健体育科】　学年【全学年】

生徒の状況	・運動が好きな生徒と苦手な生徒の運動能力差が大きい。 ・意欲的に授業に取り組み、ペアやグループで教え合いながら技能を高め合おうとする生徒が多い。 ・９年生になると授業で学んだ技能ポイントを学習カードに工夫しながら記入できる生徒が多くなるが、7、8 年生で記入できる生徒は多くない。 ・保健の授業で積極的に発言できる生徒は多いが、特定の生徒の発言が目立つクラスもある。
指導についての課題	・生徒が自分の動きを客観的に見て分析し、思考判断力を深められるようにすること。 ・生徒同士の学び合いでは、技能ポイント等を活用させ抽象的ではなく具体的な言葉で伝えたり、学習カードに記入できるようにさせたりすること。 ・保健や体育理論の授業を充実させ、実技の授業と関連付けられるようになること。
授業改善に向けての具体的な方策	① 実技単元を実施前にアンケート調査を行い、運動能力別に学習ペアやグループを設定する。 ② chrome book の動画撮影を活用し、生徒が自分の動きを客観的に見て、思考判断力を深められる場を多く設定する。 ③ 技能ポイントを絞って指導し、話し合いの場で活用するように指導する。学習カードの記入法を説明し、見本を classroom に参考資料として掲示する。提出期限を明確に伝達する。 ④ 生徒自身で競技のルールを考えさせ、試合等で運動が苦手な生徒も楽しめるようにする。 ⑤ 保健や体育理論の授業で実習を行ったり、生活と結びつきのあるテーマの調べ学習などを取り入れたり、発表の場を設ける。 ⑥ 板橋区授業スタンダードの徹底。特に「ふりかえり」の時間を確保できるようにする。

授業改善推進プラン

教科名【技術・家庭科】（技術分野）　学年【全学年】

生徒の状況	・作業、座学ともに集中して意欲的に取り組んでいる。 ・作業で分からないところは生徒同士で教え合いながら進めている。 ・毎時間の振り返りでは学年が上がるにつれ、内容が濃く、自分の考えや作業等で気がついたことが書けている。 ・説明書や写真からどのような構造になっているのかを読み解くのが苦手な生徒も見られる。
指導についての課題	・ChromeBook の使用頻度が少ない。 ・班やグループでの話し合いの時間が少ない。 ・作業手順の理解度が低い。
授業改善に向けての 具体的な方策	・ChromeBook を使用しての作業手順の振り返りを行う。 ・班やグループでの話し合い活動を増やす。話し合ったこと等を ChromeBook を使用して共有していく。

授業改善推進プラン

教科名【技術・家庭科】（家庭分野）　学年【全学年】

生徒の状況	・全学年集中して授業に取り組み、作品製作なども意欲的に行っている。 ・裁縫では個人の能力差が大きく、学年が上がるにつれて学び合いながらの作業が出来ているが、７年生は自分の作業で手一杯になっており、学び合いながらの作業ができずに、作業スピードに差が出やすい。 ・毎時間の振り返りでは ChromeBook を活用し、写真で自分の作業を撮影し、次回の作業に見通しをもち、作業の上達などを振り返ることができている。 ・座学では積極的に発言できる生徒は多いが、特定の生徒の発言が目立っている。 ・忘れ物や提出物の忘れが多く、特に ChromeBook の課題は意欲的に出来る生徒が多い一方で、同じ生徒の忘れが多い。
指導についての課題	・作業の理解度が低い生徒には、生徒の学び合いでも理解を深められるようにする。 ・作業スピードが作業の遅い生徒に合わせることになり、指導の時間が間延びしているため、反復練習をする時間がない。 ・課題の取組が悪く、授業での導入部分に時間がかかる。
授業改善に向けての 具体的な方策	・１学期の作業進度や能力差を考慮し、班を組み直して学び合いがしやすい環境にする。 ・説明時間が長くならないようにし、作業が分からない生徒は動画で確認をしながら作業できるようにする。 ・ChromeBook や係からの連絡で課題の提出のリマインドを行う。